

観察会報告

三保ビーチコーミング 2024

萬屋由香子



観察できたウニ類、ヒトデ類など

2024年12月14日に静岡市清水区三保真崎海岸で実施されたビーチコーミングに参加しました。参加者は大人5名、子供2名、晴天のなか2時間ほどじっくりと海岸を探索しました。

観察できたのはウニ類、ヒトデ類などの棘皮動物のほか、高山壽彦氏の同定により巻貝は29種、二枚貝は12種が確認されました。ユニークな人工物としては小さなドローン型のラジコンが見つかり、子供たちに人気でした。前回参加したときに見られた浮遊性のカメガイや、脊椎動物の骨なども期待しましたが、こちらは成果がありませんでした。探索を終えて駐車場に戻ると、ミサゴが肉眼でもよく見える低い場所を飛翔しており、皆で観察していたところ水面に急降下して狩りを試みていました。快晴の青い空と海をバックにミサゴの白が映え、盛り上がった瞬間でした。

汀線のあたりで小さな二枚貝を見つけ、アサリの稚貝だと思ってたくさん集めた



作製したウニ殻の標本

貝がありました。しかし、これはチドリマスオという別の種類の貝であるとのこと。ビーチコーミングの際によく見る貝だったので、長年の勘違いが解消されました。また、よく似ている2種の巻貝、イボニシとレイシガイは、いぼがはっきりしている方がイボニシかとおもいきや、それが逆であるとの指摘も、漠然ととらえていた両種の違いを明確にさせてくれました。参加者が少人数ということもあり、拾った貝の名前や特徴、似ている貝の見分け方など質疑応答の時間が十分にとれて非常に勉強になりました。

棘がついた状態のバフンウニやアカウニの打ち上げがいくつか見られたので持ち帰り、標本の作り方—自然を記録に残そう（大阪自然史博物館、2007）を参考にし、殻の乾燥標本の作製を試みました。台所用塩素系液体漂白剤に一晩つけて棘を脱落させ、組織などを取り除き、口器をとりだして乾燥させると、ウニの殻の乾燥標本の完成です。非常にシンプルな方法で、きれいな標本作製することができました。殻の標本でも同定可能な場合が多いとのこと、標本としての価値もあり、簡単に作製できることが分かったので、今後のビーチコーミングでは是非ウニにも注目してみたいと思いました。